

令和6年度営農指導協議会畜産技術研修会（視察研修会）が開催されました

令和6年7月3日、令和6年度営農指導協議会畜産技術研修会（視察研修会）が開催され、県関係機関、県畜産団体、JA、JA県信連、JA全農かながわ、農業共済組合の職員32名が参加しました。

今年度の視察先は、集約的かつ省力的に質の高い肉用子牛を生産する子牛共同育成施設（キャトルステーション）の先進事例である、静岡県島田市のJA静岡経済連畜産バイオセンターでした。

同センターは、平成6年の開所以来、黒毛和種繁殖雌牛の飼育と体内及び体外受精卵の生産、静岡県内酪農家の乳用牛への受精卵移植、受精卵産子の保育・育成、育成した子牛の静岡県内肥育農家への肥育委託などの事業を実施しています。なお、肥育牛のうち雌は「特選和牛静岡そだち」、雄は「静岡和牛」として、ブランド化による販売促進活動も行っています。

現地では、子牛の哺乳舎、繁殖雌牛の牛舎及び受精卵製造室等の施設を見学し、従業員の方から、疾病予防対策、飼養管理技術及び省力化設備（哺乳ロボット）などについて詳細な説明を受け、参加者から多数の質問がありました。特に、酪農家から肥育農家までを取り込んだ子牛の生産供給体制は、神奈川県における子牛育成技術の向上や子牛流通の仕組みづくりといった課題に取り組む上で、大変参考となる取組でした。

また、バスの車中で、当所から「哺乳ロボットの上質な活用方法」及び「Brix糖度計による初乳のIgG量の推定と子牛の初乳給与改善」についての情報提供を行ったところ、活発な質疑応答や意見交換が行われ、有意義な視察研修会となりました。

畜産技術センターは、今回の視察研修で得られた知見を活かし、県内の肉用子牛の育成技術向上や生産基盤の強化に向け生産者を支援していきます。

営農指導協議会（事務局：JA神奈川中央会）では、県関係機関、県畜産団体、JA等の畜産技術職員を対象とし、年に1度、県外の先進事例について現地視察研修会を開催しており、畜産技術センターは、研修の企画や当日の運営に対し協力しています。



哺乳棟の見学



育成棟の見学